

生徒たちのレスポンスがとても早いと感じた。どのような働きかけをしたのか知りたい。

iPad 使い方の指導、ルールについて聞きたい。

iPhone 使用者に「同じだから教えてあげて」と生徒同士で教え合わせる。

どの教科でもアクティブラーニングを行なっているので立ったり座ったりするのに慣れている。タイムマネジメントが重要であり、全体の 8 割が終わる程度の制限時間設定している。

タブレットを使うよう学校の方針が明示されている。どちらのクラスも的確な指示であった。中高ともに見て思春期の生徒に対する対応の違いも勉強になった。

35 人クラスになっても同様にタブレットを使用できるような授業を考えている。本校での業者の方に来ていただく研修会だけでなく、私学会館での外部研修会に参加して新しい情報を得ている。

ロイロノートの研修会は導入前、導入決定後、そして導入後にも実施した。新しいものを試した教員からどれだけ他の教員に広がっていくかである。教員室の雰囲気大切。

使っているアプリがそれぞれのクラスで異なり、勉強になった。

クラスによって学習の難易度が違うので活動、そして使用するアプリもおのずと変わってくる。

メモアプリで音読を行なえば、タブレットを支給されていない教員も iPad を活用した授業をすることができる。

この夏、各教室にプロジェクターがつく予定。他にどのようなアプリを使っているのかを知りたい。授業の中で ICT 機器を使う割合はどの程度なのかを知りたい。

文法の説明はパワーポイントを用いる。アニメーションをつけることもできる。PC に内蔵されているメディアプレーヤーには音速変化機能がある。

Quizlet はネット環境があれば、生徒たちが家庭で学習することもできる。そのためには作成した Quizlet を公開する必要がある。

男女の仲が良いことに驚いた。発言の際にもモジモジした様子がなかった。どのように指導しているのか非常に気になる。

自然とそういった生徒たちが集まってくれた。ペアワークのペアを毎回変えている。どんどんアクティビティをさせる。試験範囲を終わらせることよりも、丸一時間音読し続けるなどして慣れさせることを優先した。また、こちららも必死で声を出した。制限時間を短く設定すると一生懸命に取り組む。

生徒は48人の詰め込みでオーソドックスな板書型の授業をしている。ICT教育のイメージは我々には手の届かない雲の上の存在だったが、努力すればできそうだと感じた。学習の定着度合いはどうか知りたい。

ICTを用いることによって眠たくさせない授業、仕掛け作りができる。能動的に参加させることができる。中間試験を見る限り、劣ることはない。説明を短く済ませたぶん、振り返りの時間をとることができる。何度も音読することで自然と頭に入っている。

訳文はプリントで渡すのみ。インプット100に対し、アウトプット1～10。インプットの方法は長々と説明するのではない。手を変え品を変えインプットを行なう。ICTを使えばスピーチをも丸1時間使わずに済む。また、解説の録音したものを配布する。生徒は自宅でも学習することができる。文章の並び替えは正解でなくてもよい。なぜならば一人ひとりがしっかりと読み込むことが目的だからである。目的と生徒の視線をずらすのが良い。